



嬉々^きと暮らそう!

木岐のまちづくりの様子をお知らせ♪



2013. 1. 25発行

まちづくりのニュースや掲載希望の情報はこちらまで
 木岐まちづくり協議会事務局 担当:青野 遥
 電話:0884-70-5059(郡内無料電話 51-9072)
 FAX: 050-8810-9165 メール: kiki-k@md.pikara.ne.jp

◆ご挨拶

今年もどうぞ木岐まちづくり協議会をよろしくお願いいたします!

- ・現在、町内会、地域づくり団体等16の団体で構成され、6つの班を組織し活動しています。
- ・環境、防災、体験交流等の事業を行うほか、事業推進のために情報交換、企画、調整等を行うことを目的に活動しています。
- ・毎月20日午後7時よりやすらぎ亭にて定例会を行っています。



定例会の様子

◆今年もどうぞごひいきに



わいわい市場
毎月第1日曜日



喫茶やすらぎ
毎月第4土曜日



お好焼わいわい
毎月第2・第4土曜日



干物朝市
毎月第2・第4日曜日

◆2013年度も地域おこし協力隊を よろしく願いします



2011年8月より木岐地区でお世話になっております、地域おこし協力隊の青野です。協力隊の任期としての最終年度である2013年度も、引き続き協力隊として活動させていただく予定ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

〈地域おこし協力隊とは〉
 総務省の事業で、委嘱を受けた都市圏住民が地方の過疎化の進む地域に移り住み、地域活性化に取り組む制度です。任期は最大3年で、契約内容や活動内容は市町村によって異なります。現在、徳島県内においては17名(2013年1月現在)が活動しています。

◆日尻地区竹藪で進んでいる計画

〈由岐支所地域振興室より〉
 1月14日(日)午後1時から、徳島県木造住宅研究会の事前復興ワーキンググループ等に所属する建築士など約10名が昨年9月の視察の延長線上にある取り組みとして、木岐日尻地区竹藪の現地調査を行いました。今回の目的は、いざという時に備えて避難村や高齢者の先行移転用に転用できる「滞在型交流施設」を具体化するために、どこから道路を入れ、どのような施設をどの程度配置することが可能なのかを、現地を歩きながら検討し、図面に反映できるようにすることでした。木岐まちづくり協議会からも関係者が参加し、作業の状況や議論の推移を見守りました。その後、3名の用地関係者には無償での協力で概ねの了解を頂いたので、町が国から補助金をもらえるように事業化できれば、今回協議した計画の一部が来年度から動き出す可能性があります。



裏面もあります

年末年始イベントアルバム



12月22日 次世代もちつき



1月2日 駅伝



1月1日 初日の出



1月5日 出初式(わいききっ子消防団)



1月5日 出初式後の放水訓練



1月21日ホーム下斜面に菜の花を植えました

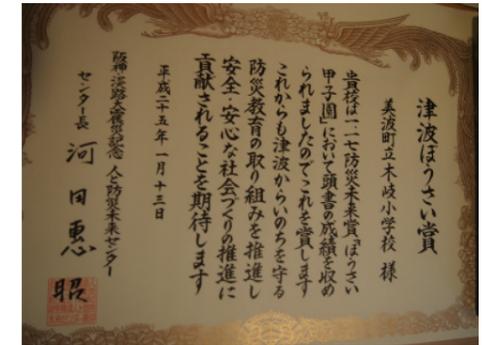
各種予定のお知らせ

※紙面の都合上抜粋して掲載しています

- ・1月26日(土):お好み焼きわいわい・喫茶やすらぎ
- ・1月27日(日):干物朝市(組合前にて9時から)
- ・2月9日(土):お好み焼きわいわい
- ・2月10日(日):干物朝市(組合前にて9時から)
- ・2月20日(水):木岐まちづくり協議会定例会

◆木岐小学校 津波防災賞を受賞

平成24年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」において、木岐小学校の『『ワイキキっ子』いざ高台へ』が、津波防災賞を受賞しました。PTA・住民協働でつくった避難階段を有効活用した避難訓練を日頃より継続して実施していることが評価されました。



徒然コラム



私は実家を離れてからこれまでに8回引っ越ししているのですが、その中で感じるのは、土地に対して肌が合うか合わないかはすごく重要だし、自分にとってエネルギーが高まる場所と何だか心さみしく思う場所はあるものだ、ということです。東京でも、いくら人気の住宅エリアであっても、埋め立て地や高層マンションが立ち並ぶ場所や、新興住宅街は私にとってあまり住みたいと

思う場所ではありませんでした。あるいは、阪神大震災、復興後のエリアも、きれいではあるけれど、何だかさみしい感じがする、と感じていました。その土地その土地でエネルギーの種類や大きさは異なるものだし、それぞれにその土地の神さまみたいなものがあるのだと思います。そして、自分の肌に合う場所に住むことは幸せの土台でもあると思います。私は木岐に初めて来たとき、この場所は肌に合うだろうな、と直感しました。その直感の根拠は今でも言葉では説明できないですが、正しいものでした。2013年も何卒ご指導のほど、よろしくお願いいたします。 〈青野〉